

に言われ、なるほど納得した。慣れている医師をリーダーにして順番に実習する。設定された外傷の状況から緊急度を把握する訓練だが、意識レベルの評価のみでなく胸郭動揺や骨盤動揺の有無の確認などやはり小児科の日常診療とはかけ離れているから汗だくになる。すでに救急室に勤務している若手医師も一緒に受講しているわけでレベルが違うなという印象はあるが学ぶものは大きい。

日本中でまたどこで大災害が起きるかわからないが、足下で発生する可能性はきわめて高くなっている。いずれの講習会や訓練も一度参加しただけでは十分とまでは言えないかもしれないが、それでも少なからぬ備えにはなると思う。